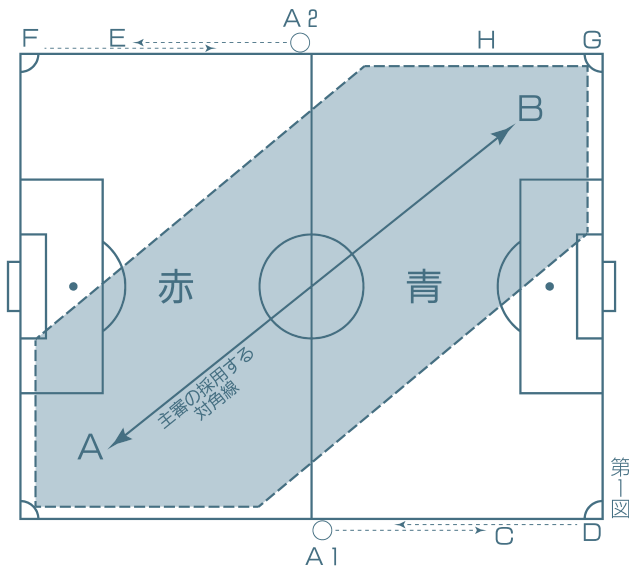


対角線式審判法

対角線式審判法の基本理念は、主審と副審でプレーを監視することである。さらに、主審にはゲームの展開等状況に応じて、適切なポジションをとることが求められる。

対角線式審判法の原則



実線 A－B は主審の用いる仮想の対角線である。

主審は A－B を軸として幅広く動き、副審と異なった角度からプレーを監視する。

副審 A1 は C や D、副審 A2 は E や F のように移動して、主審とプレーをはさむようにして監視する。

副審 A1 は赤チームの、副審 A2 は青チームの攻撃をそれぞれ受け持ちオフサイドを監視する。赤が青のゴールへ攻撃するときには、副審 A1 は青チームの守備者の後方から 2 人目の競技者と同一線上に位置して動く。同様に副審 A2 は赤チームの守備者の後方から 2 人目の競技者と同一線上に位置する。従って、副審 A1 が赤のエリアに副審 A2 が青のエリアに行くことは原則的にはない。

コーナーキックが行われるときは、どちらからのコーナーキックであっても副審 A1 は D、副審 A2 は F のコーナーフラッグポストの後方に位置する。

対角線式審判法の利点

- ① プレーを主審と副審で挟んで、異なる角度から監視することにより、より正しい判定を行うことができる。
- ② 競技のフィールドのどの場所でプレーが行われても、3 人の審判員の内、誰かが比較的近くで監視することができる。したがって、逆襲などの速い展開においても、3 人とも決定的にプレーから離されることは少ない。
- ③ オフサイドの監視が容易である。
- ④ 得点を含め、ボールの全体が競技のフィールドの外に出たときの判定が、比較的近くで、よりの確にできる。
- ⑤ いたずらに動く必要がなく、余力を持ってゲームコントロールを行うことができる。